

(議長 寺島渉)

皆さん、おはようございます。ご苦労様です。

傍聴者の皆さんにもおいでいただき、ありがとうございます。

本日は会議規則第 9 条第 2 項の規定により、会議時間を 1 時間繰り上げて行います。

これより平成 29 年 3 月飯綱町議会定例会を再開いたします。

本日の議事日程はお手元に配布のとおりであります。

(議長 寺島渉)

日程第 1、一般質問に入ります。

質問の順序につきましては、お手元に配布の一覧表とおりであります。

一問一答方式による活発なわかりやすい質問、答弁を期待しております。

なお、質問事項はあらかじめ通告されておりますので、簡潔に発言されるようご協力をお願いしたいと思います。

それでは、発言順位 1 番、議席番号 1 番、石川信雄議員を指名いたします。石川信雄議員。

(1 番 石川信雄)

おはようございます。それでは発言事項に沿って順次質問してまいりますのでお願いいたします。

まず、一般会計とは別の特別会計への繰出金について質問したいと思います。近隣自治体では、水道料金の値上げがされました。我が町では依然として上水道会計へ町から繰出金が出されております。本来、水道事業会計の中で賄われるべきと考えます。繰り出しをなくした場合、現在のままの料金体系では今後の水道インフラの維持は不可能と思われるのですが、これまでに値上げを想定したシミュレーションをしたことがありますでしょうか。

(議長 寺島渉)

峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

おはようございます。いわゆる水道会計の繰り出し、29 年度予算で申しますと、三水会計へ 2500 万、牟礼会計へ 1500 万、合わせて 4000 万の繰り出しを計上してございますけれども、まず結論的に申しますと既に今回 28 年度の中でこのシミュレーションといいますか、経営戦略を立てるべく委員会を立ち上げまして、その将来に向けての懸念される事項等々を含めて、または仮に一定の値上げをした場合にどういうふうな経営状況になるか等々について、シミュレーションしたものができております。

今議会中の全員協議会の中でもじっくり 2 時間掛けてお話をしたいと、こういう内容になっておりますので、その際にはゆっくりご説明を申し上げたいと思っております。基本的に公営企業に対する支援というものは、少し厳しく考えるべきだと思っております。補助金をただ毎年計上していくというのは、公営企業法の中でも決して適切だとは言っておりません。災害の復旧だとか、または本来の水道会計で運営しているのだけれど、止むを得ず一部町が負担するのが相応なものについては補助を考えても、本来はその水道経営の中で工面をしていくというのが本来の公営企業法の筋でございますので、多分長い年月の中でその方向に少しずつでも進んでいかざるを得ないと考えています。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

合併して 12 年ほどになるわけですが、いまだに牟礼会計、三水会計と水道会計は一本化されておられません。そのことについては町長どのようにお考えでしょうか。

(議長 寺島渉)

峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

水道事業法で一本の水道事業にするには、県に届け出をして認可をもらわなければならないわけですが、経営上は二つに分かれていても、牟礼会計の給水の単価は 100 円安いとか高いとかということではもうございません。料金は統一をしてございますし、供給については平等にやっておりますので、実質的な意味では、私はそんなに影響は出てはいないだろうと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

それでは先ほどの補助金についてですが、牟礼、三水ともに一般会計の負担金 1500 万円は人件費に充当されております。また、500 万円、高料金対策分ということで計上されておりますけれども、人件費に充当する分を補助金として出すことには、多少疑念を感じざるを得ないと思いますが、やはり水道会計の独立した会計の中で、そういった費用も賄っていくべきではないかと考えますけれども、その点についてもう一度ご答弁お願いしたいと思います。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

実質的に 1500 万、1500 万という積み上げてきた中身については、もしあれでしたら課長の方から申し上げますけれど、Aさんの一人分が 1500 万ということではなくて、水道会計の中には水道課長というのがおりません。建設水道課長、一般の業務もやる課長が水道課長も兼務しているわけですが、その人の 10 分の 1、またある職員については 10 分の 5、ある職員については 10 分の 10 というようなかたちで積算して出してくておりますので、それはご容赦をいただきたいというふうに思っています。

本来、水道会計の中で工面すべきものを補助をしていくというのは、公営企業法ではあまり良くないと言われているわけですが、今の水道会計の収支を見た場合に一定のそういう人件費補助をしてあげないと、多分もっと水道会計は貯金を使い果たして、どこかで行き詰まってくるという時期が早くなってしまいます。そこら辺を今、補助というかたちで支出をさせてもらっていますけれども、人件費に充当をするというかたちで、住民の皆さんのご理解をいただくという考え方で、設備投資は水道会計の自前で何とかやっていくということで、今運営をしていますのでご理解をいただきたいと思います。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

いずれ行き詰まることも想定されておるようですが、行き詰まる前にやはり値上げすべきものはして、こういうことを言いますと住民の皆さんからは反発を受けるかもしれませんが、やはり独立した会計の中でやっていくことが本来の姿ではないかと考えます。

近隣市町村では約 10 パーセントほど値上げもされていますし、飯綱町は水資源につきましては豊富にあるわけではございませんので、水道料金につきましても高額な料金になっても致し方ない部分もあると思います。ですので、やはり値上げをここできちんと議論されて検討した方がいいと思いますが、先ほどの検討チームのこれからの具合ですけれども、一体値上げを前提に議論されるのか、その辺についてお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

これは、国の指導の中で経営計画を樹立しなさいと。さもないと、国の交付税でいろいろ見てあげる等々のそういう関係については、これからは出しませんよと。そういうような強い指導もあった中で経営計画を立てております。

これは、いわゆる管路の維持等々も含めた、将来の給水人口も含めた中でのシミュレーションをしておりますので、そこは是非一度、もう試算が出てきておりますのでご覧をいただきたいと思っています。

1 週間ぐらい前、国が水道事業については広域の考え方で対応しろと。それに対する計画等々については一定の支援をしろと。その指導は県が関係市町村に指導体制に入れと。こういう記事が出ておりましたけれども、私どももそういう意味ではしたたかに長野市浄水場から水道をいただくというようなことも不可能ではないわけです。飯綱東高原の京急のゴルフ場のすぐそばに長野市の水道管が来ております。また、信濃町さんの方からも一応余裕があるので、両者の協議が整えば提供するということも不可能ではないよと。こういうことで、浄水場を幾つかの市町村で共同して持つことによって、かなりのお金が浮いてくると。こういう経営戦略もちろんありますので、いろんな意味の多様性を持った計画を皆さんの方にも、たたき台としてお示しをしていきたいと思っています。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

只今、広域という意見が出ましたけれども、委員会の中でもそういった水を買うということも意見として過去に聞いております。その点について建設水道課長の考えをお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)

森建設水道課長。

(建設水道課長 森佳也)

担当課長としての意見でございますが、たまたまこの前もお話したとおり信濃町さんにお伺いしたところ余っている水はあるという話を聞きました。ただ、向こうで出していただける単価は飯綱町と考え方が違います。信濃町さんに売ってくださいと言った場合に、我々としては安いお金で買って、できるだけ安く皆さんに供給したいのが本音でございますが、信濃町さんからしてみれば、やはり住民と同等程度のお金で売りたいというような、ちょっとその辺はまだわかりませんので、今後協議しながら進めたいと考えています。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

いずれにしても飲料水の問題は命に直結いたしますので、安心安全で安定した供給をこれからも町行政の方ではしっかりと見定めていただきたいと思います。

続く質問に移りたいと思いますが、これから人口が減少していく過程で下水道の維持管理にしましても、1 件当たりの負担が多くなっていくのは止むを得ません。将来予想される下水道管布設替え等の積立ではできておりますでしょうか。

(議長 寺島渉)

森建設水道課長。

(建設水道課長 森佳也)

公共下水道、それから農業集落排水事業、それぞれ基金条例がありまして、積立額ですが、今のところ公共下水道が、この平成 28 年度末で 1500 万円。それから農業集落排水事業が 2500 万円、トータルで 4000 万円の積立ての額となっております。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

福井団地の管がだいぶ老朽化していて雨水が入り込むと以前にも指摘されたことがありましたけれども、その後の対策はどうなっておりますでしょうか。

(議長 寺島渉)
森建設水道課長。

(建設水道課長 森佳也)

業者にお願ひしまして管路調査をしております。そうした中で大きな破損箇所というのは見つかっておりません。どちらかという、いつの間にかじわじわと入ってくるようであったり、マンホールの蓋が密閉式でないために、雨水、それから雪解けの水等が大量に入るということで、2 年ほど調査しております。天気の良いときには、それほど水は増えないんですけども、大雨の降ったとき、それから春の雪解けのときに水量が増えてしまうということで、引き続き調査はしてまいる予定でおります。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

只今、公共下水で 1500 万、農集排で 2500 万の基金積立てがあるとのことでしたが、ちょっと数字的には非常に心もとない数字かなと思います。全長の管のラインを考えた場合に丸が一つ足りないような気もしますけれども、そういった基金積立ての計画というのは、今後積み上げの部分とかは、お考えにはないでしょうか。町長にお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

私は下水道事業の維持が非常に大きくこれからは財政を圧迫してくると思っておりますけれども、農業集落排水で今 35 億の借金を持っています。公共で 19 億 8000、両方で 55 億円の借金を持って、この返済は今、役場の一般会計から全額繰り出しというかたちで出しております。皆さんからいただいている使用料は、ぎりぎり維持管理費の世界で使用料をいただくというスタイルになっていますから、いわゆる公会計でやっていけば減価償却分は丸ごと赤字で積算されてきているだろうなという下水道会計の中身だというふうにも思ってもらえればと思います。

従いまして、少なくとも減価償却全とは言いませぬけれど、それに見合うような方向での資金の積立というものは、必然的に求められることかと思っておりますけれども、多分、国も更新の時期が迫ったときには、好きなように自治体で全額見ろというスタイルよりも、やはり何かしらの維持管理修繕についての国も対応をしてくれるだろうと期待はしておりますけれども、減価償却の年月をもう少し延ばす計算をする中で、できるだけ関係の基金をやはり増やしていくのがこれからの方向だろうと思っております。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

一般会計からという意見があるわけですが、私たち住民からしてみれば、やっぱり水が有償でというのは、なかなか理解及ばないところでありまして、そうはいつても維持していくには、費用が掛かるということ、やはり行政の方ではちゃんと周知された方がよろしいのではないかと思いますけれども、今後こういったインフラの老朽化に伴った維持管理費用が圧迫してくると思うんですが、水道、下水を始めとして、いろいろ建築、道路いろいろあります。その中でやはり水にまつわる部分は生活に直結する部分でございますので、ちゃんとそこら辺を考えてこれから計画見直しを含めてちゃんとしたものにしていただけたらと思います。

続きまして次の質問に移ります。自治体病院である町立飯綱病院の役割は町民の健康管理に大きく貢

献しております。しかしながら、毎年 3 億 5000 万円ほどを町から拠出してしております。近隣の病院等と連携を図りながら経費の削減に努められないものでしょうか。お伺いします。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

今日、大川事務長も出席をしておりますので、もっと経営上の中身については事務長の方からも助けてもらいたいというふうに思っていますけれども、まず、飯綱病院の存在というのは、極めてこの地域においての拠点的な病院として、私は無くてはならないものだと思っております。皆様もご承知のとおり長野市消防局に事務を委託している関係で、24 時間救急車は対応が可能であり、飯綱病院は 24 時間緊急救急病院としての受け入れの態勢を整えているわけでございます。この安心度というのは非常に優れたものである。

また、担当しておりますドクターにつきましても、ほとんど定着をしていただいて、長い間この地域医療に対して深い理解をもって診療にあたってもらっていると。これは近隣の病院辺りの 2 年、3 年でお医者さんが変わるというようなのと比べますと、大変これについても素晴らしい病院経営だと思っております。ただ、これを維持していく場合に 3 億 5000 というお話ですが、これが高いか安いかはそれぞれのお考えだというふうに思いますが、3 億 5000、全て町民の皆さんからいただいた税金で支出しているわけではないということは、何回かご説明を申し上げてきております。毎年、国の交付税というかたち、または特別交付税というなかたちで 2 億 4、500 万になりますか、そんなようなかたちで国の交付税の支援もでございます。

本来の計算をさせてもらえば、病院側としては 3 億 5000 どころかもう少し多い支援をいただいてもいいのではないかという計算方法もあるかもしれませんが、そんな中で概ね住民 1 人当たり 1 万円程度のご負担で、合わせて 3 億 5000 前後、今の診療体制を維持していただけるというのであれば、非常に私は有り難いと感じているところです。

(議長 寺島渉)
大川病院事務長。

(事務長 大川和彦)

お答えします。繰出金についてのご質問でございますので、その件について申し上げたいと思っておりますが、病院からいたしますと繰入金というかたちになるんですけれども、先ほどの水道事業会計と同様でございます。公営企業に対する繰出金につきましては、経営に要する経費は料金収入をもって充てろという独立採算制が原則となっておりますのでございますが、その経営に伴う収入をもって充てることが適当でないものというものもございまして、それについては地方公共団体が負担することはできないということになっております。その点を今町長が申し上げたとおりでございます。繰出金の根拠規定というものによって繰り入れを計算していく中で、町からのご支援をいただいているということでございます。

なかなか近隣の病院等と連携をして経費を削減できるかどうかということになりますと、それはなかなか難しい現状がございまして、共同で何か購入するとか、そういう費用負担をするとかというものの仕組みがありませんので、現状とすればそういうことからする 3 億 5000 万に対する費用削減というのは、今のところは考えづらいというのが現状でございます。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

今回の予算では、飯綱病院に電子カルテ導入ということでも予算措置されておりますけれども、病院自体も老朽化してきているかなと感じられるところもありまして、カーペットなどは結構擦れてきておりますし、見たところちょっとイメージが損なわれる部分も多くなってきたかなと思います。

そういった中で、今後その病院経営のあり方として、いかにこれから患者様を相手に診療をしていく

かというのが、一つのテーマとなるかと思うんですが、今後予想される病院のハードの部分で医療機器含め、更新されるご予定のものはどの程度あるんでしょうか。

(議長 寺島渉)
大川病院事務長。

(事務長 大川和彦)

実は昨年までに大きなものといしましてはCT装置を更新いたしまして、大きなものはその辺で今のところは済んでいるというところがございますが、来年度には電子カルテを始めとして、大きなものでは電気メスであるとか、エコーであるとか、そういうものを予定しております。

喫緊にすぐ、今後大きなものが必要になるということは、今のところ想定はございません。ただ、年々老朽化していくことは当然ございますので、減価償却も合わせて考えていかないといけないところなんです。耐用年数を過ぎて、ほぼ5年ぐらいの耐用年数の医療機械でございますけれども、当院では7年から10年ぐらい使っていく中で、なるべく余計な費用を掛けないようにしながら経営を考えて取り組んでいるところでございます。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

只今、医師住宅を壊し始めて、その跡地に駐車場ということでありますけれども、その駐車場建設に伴う費用をどの程度見込んでおられるんでしょうか。

(議長 寺島渉)
大川病院事務長。

(事務長 大川和彦)

今年の予算でお認めいただいているところでございますが、一応1億円程度の予算の中で行うこととしております。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

特別会計ということで、飯綱病院もあるわけございまして、事務長の方からも独立採算制という言葉が出ました。確かに料金収入で賄えればいいことではあるんですけども、なかなかそうは言いまして、地方の自治体病院としては、難しい課題ではないかなと私自身も承知しております。

町民の皆様から利用いただいて、また健康増進を含め、そういった部分でも貢献する部分が大きい事業でありますので、気持ちの上ではやはり独立採算を目指していただきながら、これからの事業運営に努めていただければと思います。

続きまして次の質問事項に移りたいと思います。飯綱東高原の再生についてお伺いいたします。飯綱町飯綱東高原エリア研究会では、新たな東高原の姿を示すことができたでしょうか。またそれに伴う29年度の予算措置がされましたでしょうか。町長にお伺いします。

(議長 寺島渉)
桜井産業観光課長。

(産業観光課長 桜井俊次)

お答え申し上げます。この飯綱町飯綱東高原エリア研究会でございまして、昨年の11月に研究会を立ち上げまして、今まで3回開催してきてございます。概ね1年掛けて研究をしてまいりまして、研究報告をいただくように今進めているところでございます。

また、予算措置でございますけれども、29 年度の予算に関しましては、この研究会の会の運営の予算ということでございまして、この東高原エリアの関係の新たな姿の予算措置という点につきましては、この研究会の報告をいただく中で、平成 30 年度以降につきまして考えていきたいというふうに考えております。よろしく申し上げます。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

東高原も家族旅行村のあの時分から比べると、観光のそういった流動人口と申しましうか、だいぶ減ってきているのが実情でありまして、観光に求められること自体がもう時代的には変わってきているかなと思います。そのような中で、以前の観光をベースに考えて議論されておられるのか、それとも新しい観光の姿を描きながら研究会の中で話をされているのか、その辺については把握されておりますでしょうか。

(議長 寺島渉)
桜井産業観光課長。

(産業観光課長 桜井俊次)

ご指摘のとおり観光客が減ってきている状況でございます。第 1 回目のときに、その状況等を研究会の皆さんにご説明をさせていただきながら、会を進めてきているわけでございますけれども、やはり研究会の委員の皆様の中からは、以前の観光とは観光の姿が違ってきているというご指摘もございまして、現在はどのようなかたちで観光客を呼び込むのがいいのか、大きな投資をすることも財政的には大変難しい点もございまして、今ある資源を大切にしながら、どういうふうなかたちで現在の観光を考えていったらいいかということ、今考えているところでございます。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

東高原の別荘地の間伐に伴って、以前そこを遊歩道と申しましうか、ノルディックウォーキングのコースの延長にしたという経緯もございまして、そういった他の事業と組み合わせての観光振興のあり方、例えば森林を利用するのですとか、そういったことも考えられるわけでありまして、そういったことに対しての町の姿勢はどのようにお考えでしょうか。これは町長にお願いしたい。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

正しく私はそういう方向で検討すべきだと思います。それは、研究会を立ち上げるときにもご挨拶で申し上げたわけですが、極端に言えば、芋川地域辺りがもしかすると、一番みんなが見たくなる、来たくなるような地域になる雰囲気さえ今は感じております。従いまして、町有林といういい財産もございまして。いろんな意味でそれを多目的に利用する中で、新しい観光のスタイルを模索してください。

もう一つはこれからのご質問にも少しありますけれど、台湾とかマレーシアとか中国とか、またはヨーロッパとかアメリカとか、インバウンドの皆さんをある程度ターゲットにした観光施設。そして今、お金と暇が一番ある 60 代後半、65 から 80 才ぐらいまでの、そこら辺の皆さんが来たくなるような当面の観光対策等々も重要だろうと。それを十分議してくれるいいメンバーが集まっていると思っておりますので、その方向、検討の結果に大きく期待をしているところでございます。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

只今、インバウンドというワードが出ましたので、次の質問に移りたいと思います。インバウンド対応においては、絵文字のサインが有効とされております。町の要所の地区名ですとか、駅ですとか、観光施設等のサイン計画は今現在どうなっておりますでしょうか。

(議長 寺島渉)

桜井産業観光課長。

(産業観光課長 桜井俊次)

お答え申し上げます。平成 28 年度で町内の看板の調査をしてございます。この調査の中にはおっしゃるとおり地区名の看板、それから観光施設の看板、また歴史的に基づいた看板等々ございます。この調査に基づきまして、現在、町内の統一した看板のデザインを計画中でございますのでよろしくお願い致します。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

サインもそうなんです、町のパンフレットもありますけれども、依然とした町パンフレットは日本語表記のみとなっております。パンフレットの対応については、現在どのように進んでおるのでしょうか。

(議長 寺島渉)

桜井産業観光課長。

(産業観光課長 桜井俊次)

パンフレットでございますけれども、現在、世界に誇る力強い産業形成事業の中でインバウンド対応等も含めまして、英語版等々5か国語に翻訳をしまして今作成中でございます。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

今、5か国語とありましたけれども、具体的に何語になるのでしょうか。

(議長 寺島渉)

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

現在、英語、フランス語、中国語、韓国語、そしてベトナム語、この5つを検討しています。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

最後のベトナム語だけ理解に悩むところでもあるんですが、その理由をちょっとお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)

小澤副町長。

(副町長 小澤勇人)

最近、ベトナムとの交流が飯綱町を含め日本全体で増えてきているということもあって、ありきたりな言語ではなく、チャレンジングな言語を 1 個入れようということでベトナム語を入れました。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

いい方に解釈したいと思います。次の質問に移ります。庁舎建設について質問をいたします。これまでの町有施設のプロポーザル方式の設計コンペでは、主に北信地域の業者に限定する傾向があります。前議会の町長の答弁では、発想の転換も必要だとありましたが、参加条件を緩和して大学と連携するなど、より広く設計案を募ってはいかかでしょうか。町長にお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)

近藤副町長。

(副町長 近藤邦彦)

それではお答えいたします。12 月定例議会の石川議員さんからの質問に対する町長の答弁では、従来の庁舎という発想を思い切って転換するつもりになって、何かの建物の中に役場があるというぐらいの庁舎の機能を検討していただきたいと思っている、という答弁でした。ということで、この答弁については機能面についてお答えしたものと理解しておりますけれども、機能面につきましては、おっしゃるような庁舎にしたいという思いです。

設計の面では、石川議員さんがおっしゃるような大学との連携を含めたより広く設計案を募るということは、想像してみただけでも、どんな庁舎図面になるかワクワクしてくるような思いがありますけれども、審査の面では大変かなという思いはします。いずれにいたしましても、建設委員会の委員さんの皆様のご意見をお聞きしながら進めていきたいと思っております。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

先の保育園の建設に関わるプロポーザルの基本方針の中で、参加資格の中に北信地域内に本社の事務所、または事業所を有すること。また、北信地域内でしゅん工、または実施設計を完了した延床面積 1000 平米以上の保育園、認定子ども園、児童福祉施設の設計業務の実績を有すること等の参加資格要件がございます。こういった地域に限定した参加資格の下で募集していたのでは、やはり従来からの何ていうんでしょうか、枠からは抜け切れないものにしか生まれて来ないかなと思います。

やはり門を開いて、いろんな案を募って、その中で町民にお示ししながら決めていくのが、本来の私自身考える設計コンペだと思っております。そういったことにつきまして、ちょっと意識が狭いのではないかなと思うんですが、そのことについてはどのようにお考えでしょうか。

(議長 寺島渉)

峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

議員のお考えというのも一つの考え方だと思います。しかし、私は最初の設計のコンペですから、残念ながら地元にはそんな設計で頑張っている会社はございませんけれども、10 億、15 億ぐらいの仕事を頼むときにやはり皆さんの税金、企業もそうですが、税金をいただいてこの町というものを運営しているときに、仕事を発注するときに東京や大阪の名古屋の方が来てパーンと取って、しかもかなり安く取って行ってしまふ。これでいいのかなというのは一つ前々からございます。

しかし反面、発想の転換をした、考えもつかないような面白い設計の中身を持ってくると。そういう

期待もあるわけですが、ただややもすると長野市の市民芸術館なり、飯山市さんなり、大体著名な人の設計とか云々については、非常にその人の思いが強い中身になっていますから、利便性とか云々とか、または一部修正をしてほしいというような妥協性みたいなものについては、あまり聞く耳を持っておられないと。また、その後の維持管理等々を含めた場合に、トータル的にどういう発注方法がいいかなというようなことで、私は生活の知恵として今のようなスタイルが続いてきたのだろうなと思っていますけれど、今回の建設委員長さんも非常に建設に詳しい、いろいろなものを手掛けてきた方でいらっしゃると思いますので、いろいろな知恵をそこに入れながら、一番住民の皆さんが使いやすい、そして安価な庁舎にしていきたいと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

只今、他市町村の巨匠と言えるような建築家の建築についてのご意見もございましたけれども、そういった建築家と言われる方々は大御所でありますから、立派なものを造られておるわけですがけれども、若手の建築家でも、今現在ワークショップを重ねた上で、住民と積み上げていったものをかたちにしていくという設計スタイルを取っている建築家もいます。ですので、一概に建築家に頼むことが悪いということではないと思いますし、そうやって地元住民と協議を重ねながら設計に反映していくということは、大事なことだと思いますので、庁舎の建設に当たっては、そういったやっぱり地元住民の声が受け入れられて、吸い上げられるような設計スタイルでもってほしいかなと思います。それをお願いしまして次の質問に移ります。

先の議会の答弁でありました、役場旧庁舎の調査結果はどうであったでしょうか。またそれを受けての町の方向性はどうかでありますでしょうか。今予算には 50 万円の調査費用が計上されております。そのことについて詳しくご説明をお願いします。

(議長 寺島渉)
近藤副町長。

(副町長 近藤邦彦)

調査につきましては、これからというところです。昨年 12 月 13 日に信州大学工学部の建築家の土本俊和教授に来ていただきましたけれども、このことにつきましては、平成 21 年 3 月に長野県教育委員会から出版されました長野県の近代化遺産に掲載されておりますので、是非拝見したいということで来庁されました。

この年代につきましては、多くの建物は内部が当時と大分変わってきているために、取り壊される場合が非常に多いとお聞きしております。牟礼庁舎の旧館につきましては、極端な増改築もされておられませんので、間取りも当時のままの形で保存されております。そんなことから、保存、解体に関わらず、是非調査をしたいということで調査をすることにいたしました。

調査につきましては、新学期を迎えて研究室の体制が整ったところで、研究室の学生にも調査に関わってもらいたいということで予定をされています。測量調査には 3 日ほどいただきたいということでございます。調査期間につきましては、報告書も含めて 1 ヶ月半ほどで報告ができるというお話を承っております。遅くとも 6 月中旬には報告書をいただけるものと思っております。先ほど議員さんの方からもありました新年度予算に 50 万円計上したところでございます。以上です。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

なかなか古い建物でありますので、壊した方がいいんじゃないかという論調もありますけれども、私としましては、新旧を対比させながら新しい庁舎とともに共生するような形で残ってほしいなとは思いますが、庁舎の設計に関しまして、そういった部分で敷地計画の上で、その辺も含めてちゃんとした対応をしていただきたいと思いますが、町長、お願いしたいと思っております。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

三水庁舎の取壊しの時にも貴重なご意見をいただいて、図面を正式に描いて、図面として残してきておりますけれども、今のこちらの隣にある旧牟礼庁舎については、これを壊すようだと思われながらも、これを壊すよななんていう皮肉なご意見もございましたけれども、本当に周辺の用地の確保がどんなふうになりますか、建物自体の規模がどんなふうになりますか、しかしながら大変貴重な財産であるということは踏まえつつ対応していきたいと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

建設検討委員会しかりでありまして、委員会の中の議論もつぶさに聞こえてくるわけではございませんけれども、広く住民に情報公開を徹底していただければと思います。

続きまして最後の質問に移ります。峯村町政について質問したいと思います。町長の第 1 期目の任期は残すところ半年となりました。峯村町政の公約に掲げた事業の達成度はどうであるか、町長自身からお答えいただきたいと思います。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

公約と言いますか、立候補に当たっては目指す方向等を住民の皆さんにお示しをしていくのは、当然のことかと思っておりますけれども、振り返って見てみますと、もう少し少ない方が良かったかななんていうふうに思うこともございますが、全体としては、6 次産業、農業の振興、そして医療福祉も含めた子育ての支援策、そして保育園、小学校の統廃合の問題、低所得者等への手厚い行政、またそれを進めるために途中から精力的に進めてきます地方創生事業等々、トータル的に考えればある程度目的に達したのもございますけれども、ほとんどがまだ道半ばと言いますか、地方創生事業につきましても、これからいよいよ本格実施というような段階ですので、道半ばという表現も少し調子のいい表現かなと。まだまだ厳しい状況かなと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

町長の掲げておられました大きい直売所ですけれども、6 次産業化の事業も当初町長がビジョンに掲げていたものとは結構掛け離れてきているのではないかなと思いますけれども、そういった直売所につきまして、当初は道の駅的な結構規模の大きいものを想定されていたと思うんですが、現在はそれには考えておられないと思います。その辺について、改めてちょっとお伺いしたいと思います。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

今もその希望を捨てているわけではないので、当初予定をして思っていた関係の場所が、どうもご協力をいただけないと。向こうにも利用の目的があるという、こういうようなお話が順にわかってきまして、場所の確保という問題では行き詰っておりますけれども、私は何とか長野荒瀬原線沿い辺りに、そういう拠点となるような施設が建設できれば一番有り難いなと。しかも、当初から申しましたとおり、

いわゆる民営でやっていけるような団体で中心的に建設をしていくと。そういう方向になれば一番いいなというふうに思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

町長はオール飯綱を掲げて選挙に打って出られましたけれども、一つになる町は強いというスローガンの下に、これまで運営してきておられるかと思えます。オール飯綱ということについては、今現在どのように受け止めておられるのでしょうか。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

中には、まだまだ意識の違いがあるというふうにおっしゃる方もおりますけれど、私はこれについてはかなり一本化になってきたなど。赤東地域から東高原地域まで、やはり飯綱は一つだと。こういう感じで住民の皆さんもいろんな意味で一つになって協力をしていただけると。間違いなくこれについては大きな前進をしたと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

続きまして次の質問に移ります。10 月には町長選挙、議員の選挙もあります。また、飯綱町の地方創生事業も道半ばではありますけれども、第 2 期、実際に町長は出馬されるお考えはありますでしょうか。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

町長を 3 年半ぐらいやらせていただいて、この職務を全うしていくというには、常に全力で立ち向かっていく気力とか体力、能力、そういうものが欠けて惰性で毎日を過ごすような状況になっていけば、もう存在価値はないだろうなと思っています。従って、この 4 年間は一生懸命フルに活動してきたという意識はあるわけですが、これが向こう 4 年間続くかどうかは、いろんな人と相談を試みたり、何とんでも自分がそれだけに耐えていかれる人間かどうかをもう 1 回冷静に見て、それから判断をしていきたいと思っています。

(議長 寺島渉)
石川議員。

(1 番 石川信雄)

実際に住民の方々にとりましては、もう時期からして、雪解けとともにそのような話が多くなっていくかと思いますが、体力、気力、知力とありましたけれども、現在、町長のそういった部分では、ご自身としてどのように、まだまだいけるぞというそういう気概はあるのでしょうか。

(議長 寺島渉)
峯村町長。

(町長 峯村勝盛)

フィフティフィフティだというふうに思っています。50 パーセント、50 パーセント。

(議長 寺島渉)

石川議員。

(1 番 石川信雄)

ちょっと雲行きがはっきりしないお答えではありましたけれども、町長に限らず 10 月には議員も選挙というわけでございます。その中でやはり飯綱町のこれからの行政運営をしっかりとしていかなければなりません。選挙対策費用として 1000 万円ほどが計上されておりますし、ならば選挙をしてリニューアル図れればと思います。

是非、町長にも続きまして立候補していただければと私自身は思いますけれども、そのようにお伝えしながら私の質問を閉じたいと思います。

(議長 寺島渉)

石川議員、ご苦労様でした。

それではこれから暫時休憩に入ります。

再開は 10 時 5 分ということにします。